

令和6年度第2回犬山祭伝承保存委員会 次第

とき 令和7年1月30日(木)
午後1時30分～3時00分
ところ 犬山市役所2F 202-203会議室

次 第

1. あいさつ

2. 報告事項

- (1) 犬山祭の保存・活用に関する届出等について・・・p.1～8
- (2) 令和6年度修理事業の進捗について
中本町修理事業（水引幕）・・・p.9～35

3. 協議事項

- (1) 令和7～8年度修理予定事業について
中本町修理事業（水引幕）・・・p.9～35
- (2) 令和7度修理予定事業について
寺内町修理事業（車輪等）について・・・p.36～53
- (3) 保存修理に関する年次計画について・・・別紙1〔非公開〕

4. その他

- (1) 令和7年度第1回委員会の開催日程について・・・別紙2

令和6年度第2回犬山祭伝承保存委員会出席者名簿

●日時 令和7年1月30日(木) 13時30分~15時00分

●会場 犬山市役所2F 202-203会議室

犬山祭伝承保存委員会委員

(敬称略・順不同)

役職名	氏名		備考
委員長	鬼頭 秀明	文化審議会専門委員、中京大学非常勤講師	
委員長 代理	菊池 健策	元文化庁文化財部伝統文化課主任文化財調査官 東京文化財研究所客員研究員	
委員	入江 宣子	日本民俗音楽学会会員・民俗芸能学会会員	
委員	藤井 健三	財団法人西陣織物館顧問	
委員	石榑 康彦	日本ロボット学会会員・日本機械学会会員・工学博士	
委員	岩田 敏也	愛知県文化財保護審議会委員、東海工業専門学校講師	
委員	多和田 兼道	(一社)犬山祭保存会会长代行	
委員	小林 幹和	(一社)犬山祭保存会参与	
臨時委員	栗谷 和男	令和6~8年度事業実施町内(中本町)代表	任期:中本町修理事業完了迄

オブザーバー

(敬称略)

氏名		備考
前田 俊一郎	文化庁文化財第一課民俗文化財部門主任文化財調査官	
波多野 晶	愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室主任	

事務局

氏名		備考
中村 達司	犬山市教育委員会教育部長	
加藤 憲夫	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長	
小川 正広	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長補佐	
市野 恵子	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課統括主査	
輿石 みゆき	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課	

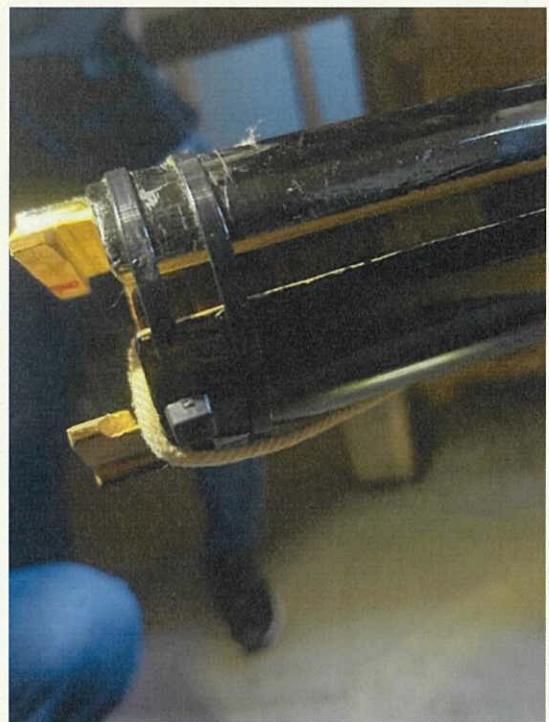
犬山祭〔国・県指定文化財〕に関する届出等について（前回委員会以降提出分）

1. 現状変更、保存に影響を及ぼす行為等
なし
2. 管理責任者の選任又は解任
なし
3. 所有者等の変更
なし
4. 所在の場所の変更
なし
5. 滅失、き損、亡失等
① 届出先 愛知県知事 届出者 (一社) 犬山祭保存会(下本町) [内容] 届出日 : R6/10/31
○毀損箇所と状況 ・からくり人形の部品である舞棒（ヒノキ製）の片側端部が亀裂破損している（からくりの機構には影響のない箇所である）。
○毀損の原因 ・催事準備中の落下による毀損
○毀損後の処置 ・応急処置として舞棒と同色の結束バンドで毀損箇所を固定し、亀裂の拡大を防いでいる。 修理方針は今後検討予定。
6. 修理
なし
7. その他
なし

下本町からくり人形「應合子」



舞棒の毀損状況



- ・舞棒の片側端部が亀裂破損している。
- ・応急処置として黒色の結束バンド 2 本で毀損箇所を固定し、亀裂が拡大しないようにしている。
- ・からくり仕掛けには影響がない箇所であり、修理方法は今後検討の予定。

車山等の不具合等に関する報告（令和6年大山祭終了後の照会による新規報告案件）

箇所	箇所・内容	発生時期	原因	その他参考情報	確認日程	確認結果	修理方針	実施内容
枝町								
魚屋町								
下本町				虫干しの際に提灯の不具合個数を調査予定	—			
中本町								
熊野町								
新町								
本町	芯棒が反っている	加工後に材の乾燥が進んだためか	・芯棒はS48製 ・亀裂は前後の芯棒いずれにも入つている 【確認者：岩田委員】	用心束を検討したい 調整を検討したい	R6. 8. 20	・安全策として用心束を設置する ・修理時期は今後町内会の協議にて決定 【確認者：岩田委員】	(未実施)	
綾屋町	車輪（左前後）の座板の釘が抜けてくる（紛失も有り）	不明（確認したのはR6の大山祭後の点検時）	・長年にわたる振動の影響 ・左前後の車輪の内側では座板と釜金物が密接されているが外側では密接されておらず、座板が釘で留められていること			・左前後の車輪の外側の座板の抜けが著しい ・抜けてきた釘に引っかかって鼻栓が折れるなどのこと 【確認者：岩田委員】	(未実施)	
名栗町	屋根押えで屋根板を留めているが、屋根板に付いている鉄金具、屋根押え側の穴、細付きの釘の関係が悪く、良好に固定できない箇所がある（全12箇所中11箇所が必要改善）	不明（確認したのはR6の大山祭後の点検時）	屋根押え側の穴が大きくなつてきただこと、屋根板の鉄金具が沈んだことなど（要確認）	急を要する状態ではないため、R7に予定している解体点検時に細部確認のうえ対策を検討し修繕したい	R7 解体点検時			
寺内町	彫刻の経年劣化（部分的に損傷）							
余坂町	夜山用轍の経年劣化 笠鉢の経年劣化	不明（確認したのはR6の大山祭後の点検時）				急を要するものではないため、いずれ国庫補助事業での修理を検討したい（町内での検討もこれから）	—	
外町								

犬山祭伝承保存委員会 本町車山車輪等現場確認 記録

日程： 令和 6 年 8 月 20 日（火）10:15～11:00

会場： 本町車山藏

出席者： 委員

　　岩田敏也氏

　　本町

　　伊神清高氏、兼松潔氏

　　協力業者（㈲八野大工）

　　八野泰明氏

　　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

　　市野恵子

1. 芯棒束工事について

・ 芯棒の状態

- ・ 芯棒（特に前の芯棒）が反っている（中央部が上方へ膨らんでいる）。亀裂は前後ともに入っている。今すぐ急激な変化が起きるとは思っていないが、平成 10 年の犬山祭で中本町の芯棒が折れたこともあるので、安全策として用心束を設置したいと考えている（伊神氏）。
- 中本町の芯棒が折れた事故の後、新町が用心束を設置している（事務局）。

・ 芯棒の製作年代は？（岩田委員）

→「昭和 48 年 3 月吉日」と芯棒底部に墨書きされている（伊神氏）。

・ 設置する用心束の寸法

・ 束の寸法は？（岩田委員）

→長さ×幅は 4 寸 5 分角～5 寸角で検討している。高さは、設置時の束底面が地面から 15cm 上になる寸法を検討している。当初は地面から 10cm 上と考えていたが曳くときに邪魔にならないよう考慮して 15cm を検討している（八野氏）。

・ 用心束の取付け

- ・ 束は芯棒の下方からはめ込む方法で取付ける。芯棒天部を渡すのはボルト 1 本のみである。芯棒を傷めないため、天部のボルトを締める力だけで束を留める（八野氏）。
- ボルト 1 本で束がずれないか？（岩田委員）

→何年か後にボルトがゆるむ可能性はある。定期的に点検をしてもらうほうがいい（八野氏）。

→撤去する芯棒口金とは？（事務局）

→大引を通す穴の内側の口金（芯棒の亀裂対策として設置されている）である。用心束を設置する箇所に付いているため撤去する。束設置後に戻すものではない（八野氏）。

・ その他

- ・ 県指定有形民俗文化財なので届出が必要である。「この処置は安全策であり車山そのものは傷めない加工を施す」とことと「他町にも前例がある」ことを記載すること（岩田委員）。

2. 車輪工事について

・ 座板の釘の取替え

- ・ 正面向かって左（前後）の車輪の座板の釘抜けが著しく、抜けてきた釘に引っ掛かって鼻栓が折れる（伊神氏）。

※正面向かって左=進行方向向かって右

- ・ 左前後の車輪の内側では座板と釜金物（=軸受け金物）が溶接されているが外側では溶接されておらず、座板は釘で留められている。釘抜けしている箇所を埋木したのち改めて釘打ちする（八野氏）。

※右（前後）の車輪は座板が溶接されているので修理対象外。

・ 鉄製のワッシャー（丸座）の新設

- ・ 鼻栓の折損防止と油よけのために、裏面にグリスホールを加工した鉄製のワッシャーを作成する。厚みは4.5mmを想定している（八野氏）。
- ・ （有）八野大工による書類に記載の「遊車」が高山での呼称であるとの説明を受け）車山の部材の名称は犬山各町での呼び方を尊重したほうがいい（岩田委員）。

3. その他

- ・ 町内の予算の都合で芯棒束工事と車輪工事を同時に発注できないかもしれない。その場合は安全に関わる芯棒束工事を先行させることになると思う（伊神氏）。



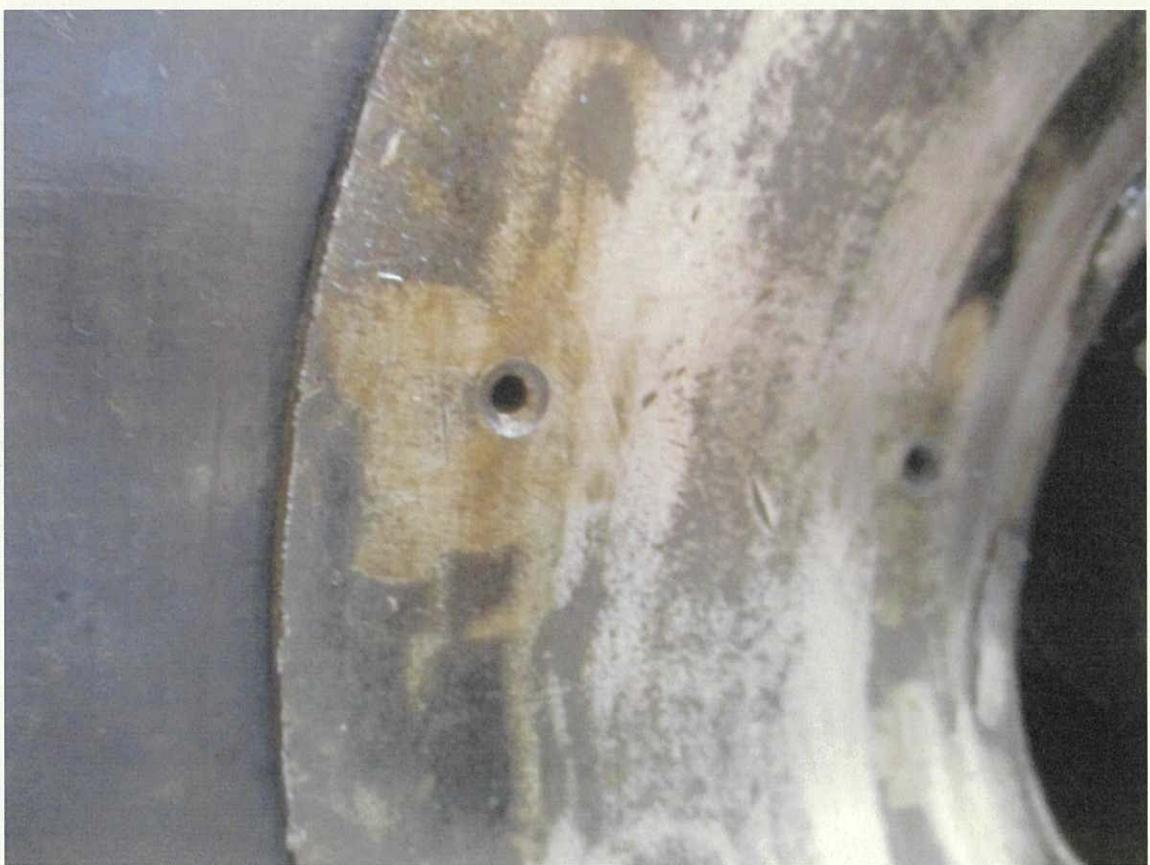
芯棒（前）の反り



芯棒（前）の亀裂



車輪（左前）の座板



車輪（左前）の座板の釘抜け

中本町車山「西王母」



事業計画

(1) 文化財の概要

イ. 名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 (中本町)	犬山市内 (中本町)	H18.3.15.	中本町懸装幕 (水引幕復元新調)

ロ. 過去における事業の内容とその実施年度（自費事業を含む）

天保 04 年 (1833)	からくり人形修復
天保 11 年 (1840)	車山修復
慶応 03 年 (1867)	下山幕新調 ←今回復元新調する水引幕
明治 35 年 (1902)	唐子人形修理
大正 11 年 (1922)	中幕新調
昭和 47 年 (1972)	下山柱復元新調 <県費補助事業>
昭和 50 年 (1975)	上山・中山修理 <県費補助事業>
平成 03 年 (1991)	車山構造外装修理 <県費補助事業>
平成 13 年 (2001)	水引幕修理 ←今回復元新調する水引幕
平成 14 年 (2002)	からくり人形復元新調 <県費補助事業>
平成 20 年 (2008)	梶棒復元新調 <県費補助事業>
平成 27 年 (2015)	水引幕修理 (網掛け保護) ←今回復元新調する水引幕

ハ. 復元新調する幕の現在（修理前）の状況

中本町の車山「西王母」に懸装される現用の水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繡幕（前後左右各 1 面）」は慶応 3 年製作と伝えられ、図柄や製作仕様からさらに幾分古い時期のものである可能性も考えられる。製作時以来の経年変化によって相当な損傷が見られたことから、平成 13 年に全面的な綴じ直しの修理、平成 27 年には損傷部分を覆う網掛け刺繡による保護措置が行われている。現在、幕全体にわたり刺繡糸の剥落や綴じ糸の欠損などが進んでいるが、再度の修復は不可能な状態であり、早期に新調する必要がある。

(2) 事業の内容

イ. 概要

修理内容（予定）

令和 6 年度

- ・水引幕（右面）1 面の復元新調
- ・水引幕刺繡内の金具（水引幕 4 面分）の復元新調

令和 7 年度

- ・水引幕（前後面）2 面の復元新調

令和 8 年度

- ・水引幕（左面）1面の復元新調
- ・水引幕天部の現用鋳金具（水引幕4面分）のクリーニングと調整

工期

令和 6 年 4 月～令和 9 年 3 月（予定）

請負業者及び契約金額

令和 6 年度

徳龍村美術織物 金 14,828,000 円（契約済）

令和 7 年度

— 金 18,194,000 円（見込）

令和 8 年度

— 金 12,738,000 円（見込）

□. 工事事務

- ・犬山祭伝承保存委員会で了承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（中本町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成〕

中本町代表者

鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会委員長）※R6 監修者（6 月以降）

藤井健三氏（犬山祭伝承保存委員会委員）※R6, R7, R8 監修者

久保智康氏（犬山祭伝承保存委員会委員）※R6 監修者（6 月迄）

- ・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。
- ・詳細な修理記録を作成する。

△. 工事仕様

別紙仕様案参照

中本町車山「西王母」 水引幕 現況（修理前）

	<p>R7</p> <p>水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繡幕）</p> <p>前面</p> <p>製作時以来の長年にわたる経年変化によって著しく損傷していたため、平成13年に全面的な修理、平成27年に網掛け刺繡による保護措置を行っている。修理によって外観が損なわれているうえ、今後の使用にも耐えない状態となっている。</p>
	<p>R7</p> <p>水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繡幕）</p> <p>後面</p> <p>前幕に同じ。</p>
	<p>R8</p> <p>水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繡幕）</p> <p>左面（進行方向向かって左）</p> <p>前幕に同じ。</p>

R6



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繡幕）

右面（進行方向向かって右）
前幕に同じ。



水引幕細部

平成 13 年の修理、平成 27 年の保護措置以後も幕の損傷が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繡糸の劣化、剥落、欠損が見られる。



水引幕細部

綴じ糸の欠損による刺繡糸の剥落が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繡糸の劣化、剥落、欠損が見られる。

中本町車山「西王母」 水引幕 現況（修理前）



R6

水引幕刺繡内の金具

麒麟の黒目が4面で計12個、白目が4面で計12個、牙が4面で計6個付いている。原品を保存し、新調幕用の金具を復元新調する。

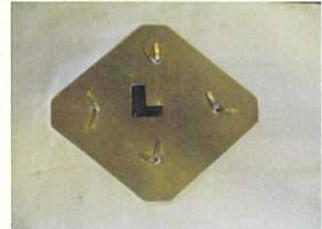


R8

水引幕天部の木瓜紋鎔金具

4面で計18個付いている。原品をクリーニングし、新調幕で再用する。

裏座金



令和5年 2月 28日
株式会社 龍村美術織物

犬山祭 中本町 西王母 水引幕 復元新調 再見積仕様書

原幕をもとに、現在の技術を駆使し、素材も含め可能な限り原品に近い復元を行う。
また、各工程においても万全な管理体制のもとに制作を行う。

水引 仮「金地瑞雲に麒麟図総刺繡」 計4枚

表部本紙（前後左右幕共通）

表地(本紙)裂 総刺繡

① 技 法 地場: 本金(丸金糸)の折り返し駒詰め。
麒麟: 絹糸による唐縫り・撚り金糸の駒詰め。
部分的に紙縫り・ワタを用いた盛り上げ。
毬: 卷き立て刺繡。
瑞雲: 絹糸による唐縫りの駒縫い。

② 素 材 繡糸 正絹
本金糸
綴じ糸 正絹
目・牙 (仮) 銅・真鍮等の硫化仕上げ
(仕様に関しては、委員会の指導に従います。)

③ 色 数 約 15色(本金含)

④ 染 料 主として酸性染料・含金反応染料(堅牢染)

上辺部裂・覆輪裂(前後左右幕共通・下記の項目含)

黒羅紗 1.4mm

上辺部・吊り板 白木平板(桧)

天部の鎌金具 18個 原品再利用

芯地 編布

裏 裂 麻

仕立て ① 規格寸法 前・後面 約 (H) 620 × (W) 1960
左・右面 約 (H) 620 × (W) 2830 (mm)
詳細は車山本体への取付状態等により調整予定

② 縫 製 縫製及び仕立ては原幕仕様に準じて、巡行に耐えられる
堅牢なる仕立てを行う。

技法に関して 麒麟は直縫・切り付け縫(若干の盛り上げ)どちらでも対応可能です。

・製作は委員会のご指導を得ながら進めます。

① 麒麟の黒目 (前幕 2 個 + 後幕 2 個 + 右幕 4 個 + 左幕 4 個 = 計 12 個)

R6

素材	銅 (厚さ : 0.8mm)
寸法	現在品に合わせる
形状	現在品に合わせる
着色	黒漆焼付 ※金具保護のため、ベンゾトリアゾールをエタノールで希釈して塗布する。 【蛍光 X 線分析調査で検出された金属】 ●ほぼ銅 [Cu] のみ ●ごく僅かな鉛 [Pb]
② 麒麟の白目 (前幕 2 個 + 後幕 2 個 + 右幕 4 個 + 左幕 4 個 = 計 12 個)	
素材	銅 (厚さ : 0.8mm)
寸法	現在品に合わせる
形状	現在品に合わせる
着色	水銀箔鍍銀 7 回 ※金具保護のため、ベンゾトリアゾールをエタノールで希釈して塗布する。 【蛍光 X 線分析調査で検出された金属】 ●主として銅 [Cu] ●少しの銀 [Ag] ・水銀 [Hg] ●ごく僅かな鉛 [Pb]

②' 麒麟の白目の裏の座金 (前幕 2 個 + 後幕 2 個 + 右幕 4 個 + 左幕 4 個 = 計 12 個)

R6

素材	真鍮 (厚さ : 0.8mm)
寸法	現在品に合わせる (黒目より少し大きい寸法)
形状	現在品に合わせる
着色	なし

③ 麒麟の牙 (前幕 1 個 + 後幕 1 個 + 右幕 2 個 + 左幕 2 個 = 計 6 個)

R6

素材	銅 + 亜鉛 + ニッケルの合金 (厚さ : 0.7mm) ※市販品では「洋白 C7451」 (ニッケルと亜鉛を含む銅合金 ; 製品によって化学組成に幅がある) が近い。
寸法	現在品に合わせる
形状	現在品に合わせる
着色	なし ※金具保護のため、ベンゾトリアゾールをエタノールで希釈して塗布する。 【蛍光 X 線分析調査で検出された金属】 ●銅 [Cu] 60.2% ●亜鉛 [Zn] 31.3% ●ニッケル [Ni] 7.4% ●残りは銀 [Ag] ・鉛 [Pb] ・鉄 [Fe] ・錫 [Sn] など 1% 以下 (不純物、腐食、汚れなどか)
③' 麒麟の牙の裏の座金 (前幕 1 個 + 後幕 1 個 + 右幕 2 個 + 左幕 2 個 = 計 6 個)	

素材	真鍮 (厚さ : 0.8mm)
寸法	牙より少し大きい寸法とする
形状	板状
着色	なし

蛍光 X 線分析調査者 : 京都国立博物館学芸部保存科学室長 降幡順子氏
使用機器 : ハンドヘルド蛍光 X 線分析計 「VANTA」 M シリーズ

※いずれも修理実施年度にサンプル (各 1 個以上) を製作して承認を受けてから本製作に入ること。

<その他>

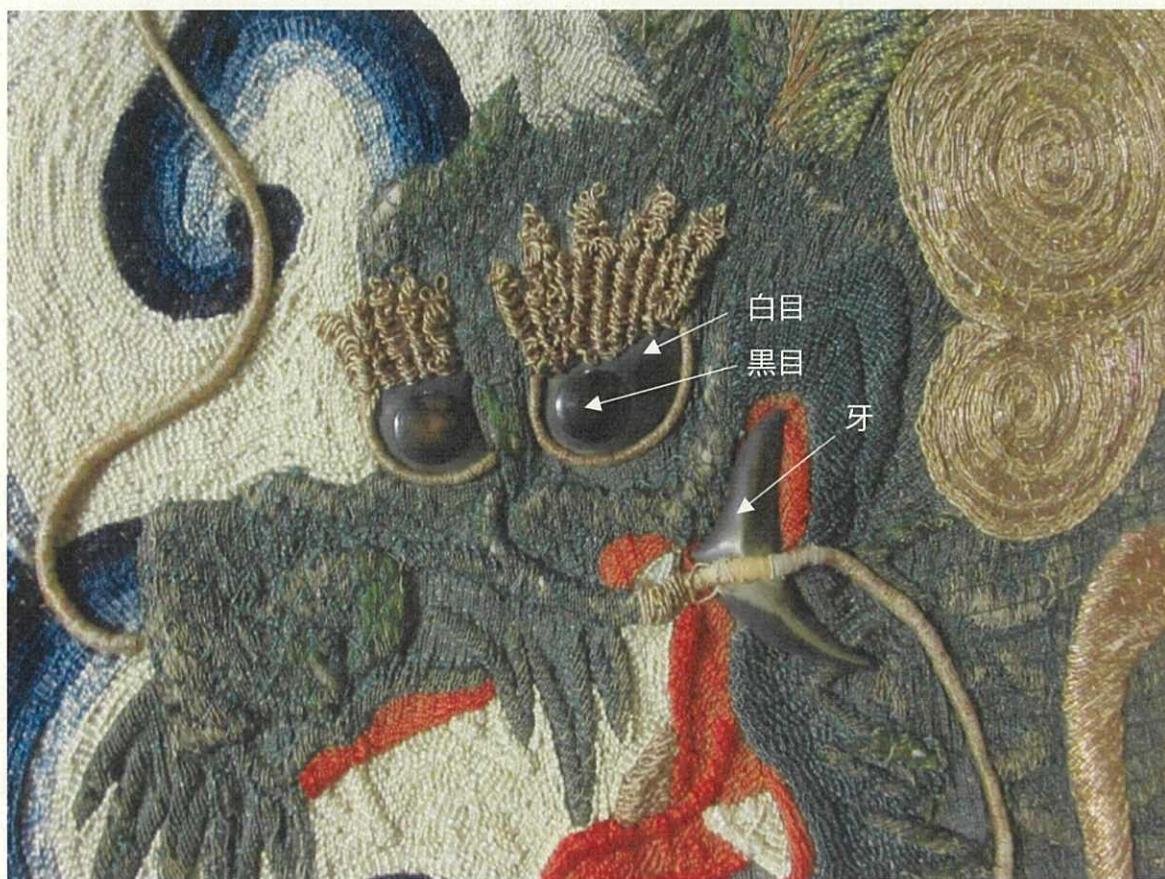
○一文字裂上の鎧金具 18 個 (木瓜の寸法 : 約 W100mm × H85mm) ※現行品を再用予定

・ 蛍光 X 線分析調査の結果より

現行品の仕様… 外郭弁 ⇒ 銅ベース + 金鍍金、中心部 ⇒ 銅ベース + 黒漆焼付 / 硫化

・ 課題

幕本体からの取り外し時に割足が取れた場合の付け方 (要検討)



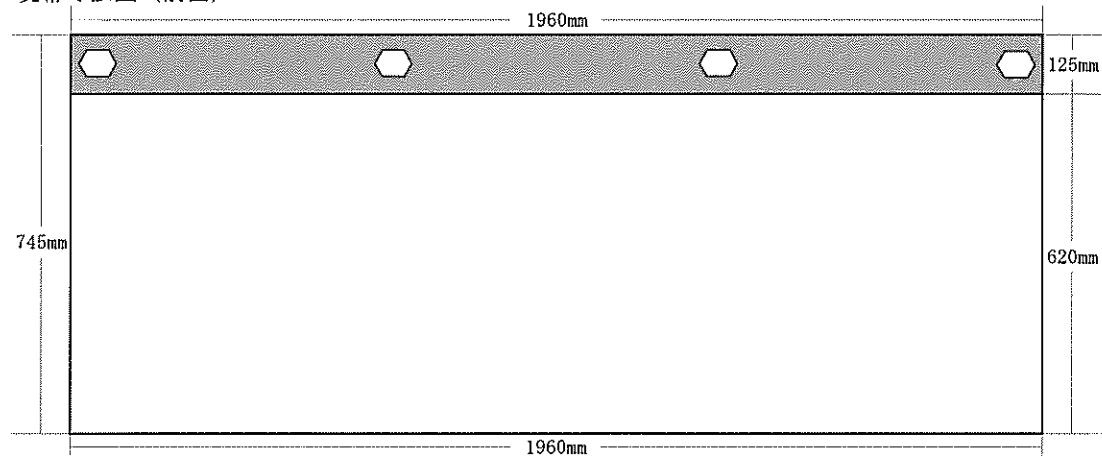
前幕



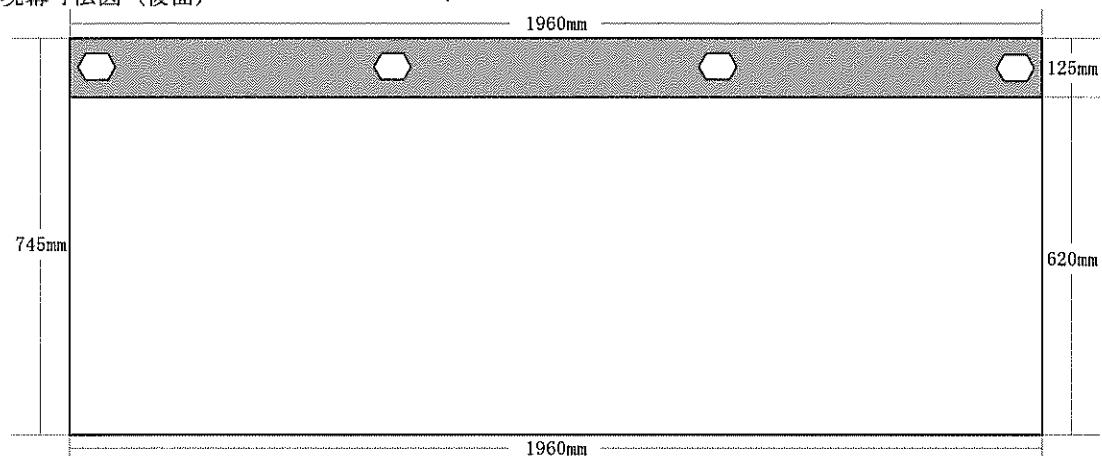
後幕

中本町水引幕「紺地瑞雲麒麟文様刺繡幕」寸法図

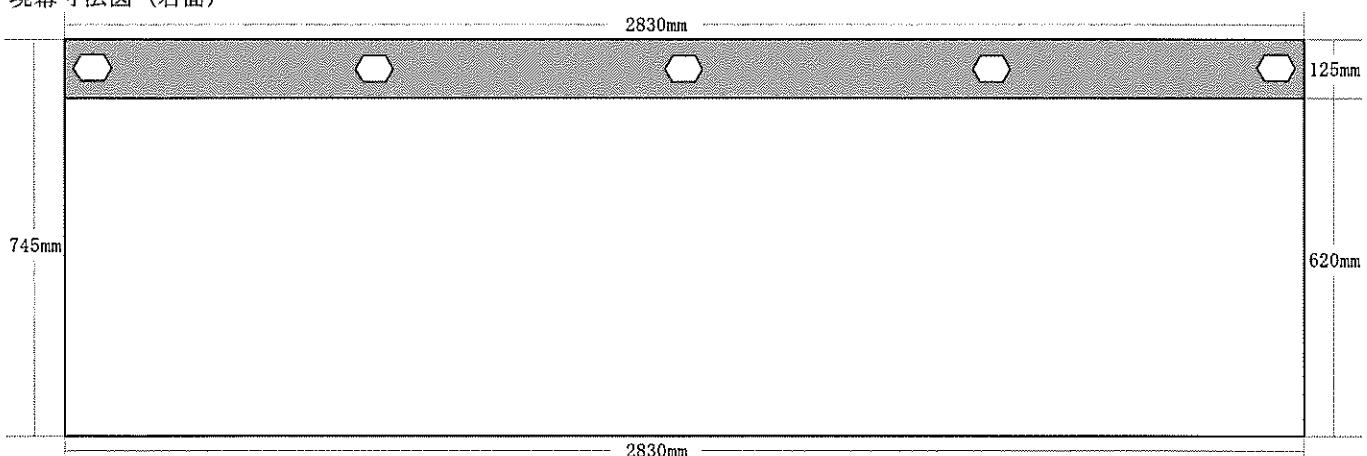
現幕寸法図（前面）



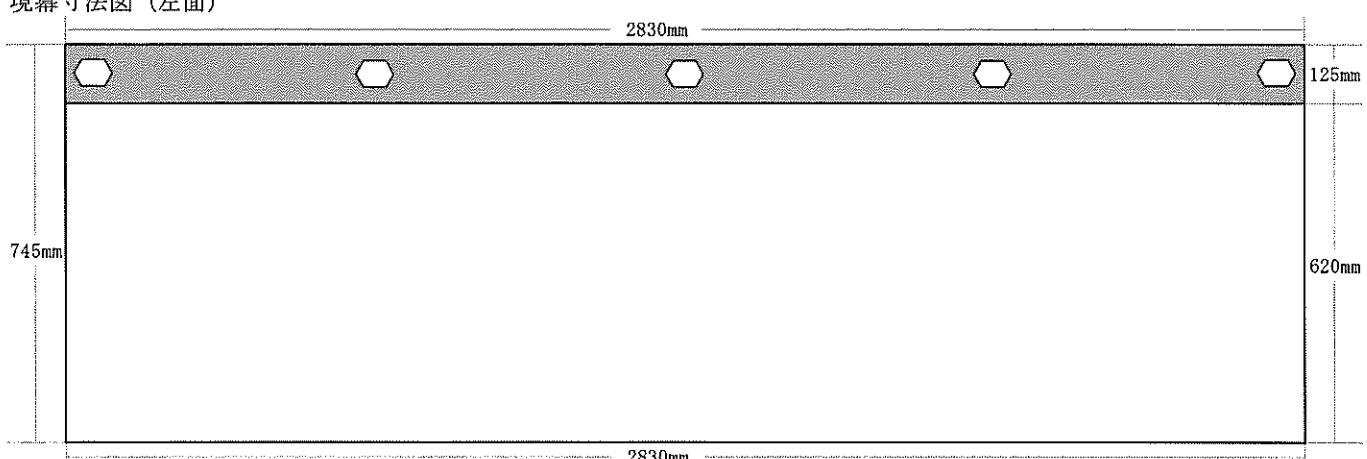
現幕寸法図（後面）



現幕寸法図（右面）



現幕寸法図（左面）





太山祭 中本町 水引 復元新調 (仮) 工程表

年月	令和5年度												令和8年度												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
水引 傷面																									
底品黒糸																									
絹茶																									
下絞																									
余糸端																									
足色																									
足糸																									
詰糸																									
本品(深緑)																									
深緑底材 金具																									
詰糸																									
製糸																									
角竹板																									
仕立て																									
水引 前後																									
縫製互																									
綿茶																									
下絞																									
余糸端																									
足色																									
足糸																									
詰糸																									
本品(紺緑)																									
紺緑底材																									
仕立て																									
水引 傷面																									
底品黒糸																									
絹茶																									
下絞																									
余糸端																									
足色																									
詰糸																									
本品(紺緑)																									
紺緑底材 金具																									
仕立て																									

犬山祭の車山行事（中本町）修理委員会 議事録

日程： 令和6年6月6日（木）15:30～17:00

会場： 犬山市役所 会議室202・203

出席者： 委員

中本町：栗谷和男氏、金森治樹氏、吉野雅司氏、近藤俊也氏

犬山祭伝承保存委員会：鬼頭秀明氏、藤井健三氏、久保智康氏

来賓

前田俊一郎氏（文化庁）、小川裕紀氏（愛知県）、波多野晶氏（愛知県）

修理請負業者（㈱龍村美術織物）

谷口仁志氏、清水紀郎氏、小林諒子氏

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

加藤憲夫、小川正広、市野恵子、興石みゆき

1. あいさつ

- 中本町代表 栗谷和男氏
- 文化庁 前田俊一郎氏

2. 委員会規則の確認 資料1

- 委員会規則、報償及び旅費規程についての概略説明（事務局）

3. 会長、副会長、会計の選任

- 会長に栗谷委員、副会長に高木委員、会計に栗谷委員（兼任）が選任された。

4. 協議事項

(1) 修理方針と進捗の確認 資料2 資料2別綴 (2) スケジュールの確認 資料3

- 修理方針等の概略説明（事務局）

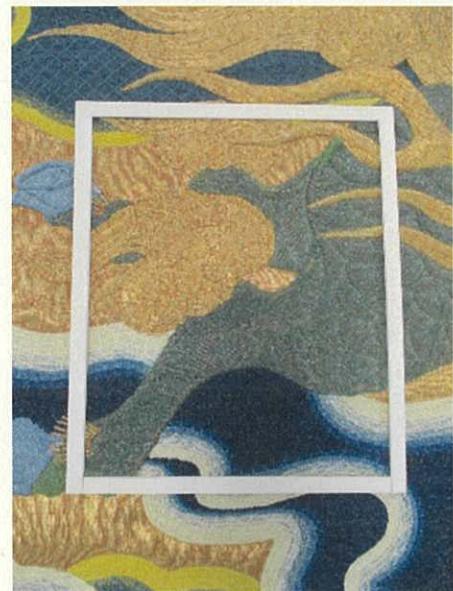
- 中本町の水引幕の来歴：製作は慶応3年（1867）と伝えられ、今年で157年が経過している。長年の使用によって傷みが進んでいたため、平成13年に全面的な綴じ直しの修理、平成27年に損傷部分を覆う網掛け刺繡の修理を行っている。
- 3カ年の事業スケジュール：1年目は側面の幕1枚の新調と前後左右4面分の麒麟の目と牙の製作、2年目は前後の幕計2枚の新調、最終年に側面の幕1枚の新調と幕上辺の鎧金具18個の現幕からの取り外し、クリーニング、新調幕への取付を予定している。
- 復元新調の仕様（資料 p.7～9）：現幕に倣って忠実に復元製作することを基本とする仕様である。目と牙は蛍光X線分析調査で得た金具の素材や着色の組成データにもとづく復元仕様となっている。
- 寸法：資料 p.11 が現幕4面の概略寸法であるが、ゆくゆく車山本体を採寸して水引幕を懸けたときの六本柱や赤幕との重なりなども考慮して最終的な新調寸法を決めることになる。

- ・ 金具に関する修理方針等の詳細説明（久保委員）
 - ・ 刺繡幕の目や牙を金属で作るのは中京方面の特色で、犬山以外では津島や名古屋の祭礼幕にも同様の事例がある。復元新調すると金糸は今よりも光るものになるが、目や牙もデザイン的に強調したいというコンセプトがあったと言える。そのため、元々どのような色だったのかを確認することが重要だが、金属は空気中のさまざまなものと反応して当初とは異なる色に変化しているので、蛍光X線で組成分析をして元の材質を確認してから施工する。本幕に関しては、黒目、白目、牙の3種類があり、黒目と白目は概ね予想どおりの分析結果だったが、牙が想定外で、仕様書（案）にあるように銅と亜鉛とニッケルの合金であることが判った。ニッケルは近代になってからの技術だが、本幕が製作された幕末にも使われていたことが今回の結果から判り、金属工芸を研究している我々にとっても非常に大きなことであった。この牙の素材は一から作るとコストがかかるので、組成が近い洋白 C7451 という市販のニッケル亜鉛合金を利用する。あとは監修の過程で盛り上げの形状などを確認しながら進め、今年度中に黒目、白目、牙は4面分すべて製作するという予定である。
- ・ 金具の足について
 - ・ 金具がどのように刺繡に取り付けられているか、足の構造を確認する必要がある（久保委員）。
 - ・ 幕を一部解いて金具の裏の状態を確認したい（㈱龍村美術織物）。
 - ・ 前回の修理の際の調査記録は残っていないか（金森委員）。
 - ・ 前回は調査対象が刺繡だったため、金具についての詳細な記録は含まれていないと思う。参考になる記録があるかどうかは再度確認する（㈱龍村美術織物）。
 - ・ 有形文化財なので刺繡本体を削るような調査方法ならばしないほうがいい（久保委員）。
 - ・ 町内としては現幕を切らなければならない調査はしてほしくない（金森委員）。
 - ・ 調査は、裂を切るのではなく、下の部分で裏裂をほどく方法で行う。手縫いなので難しいことではなく、糸の当初の色を確認する時などにも仕立てを解くことはある（㈱龍村美術織物）。
 - ・ その方法で確認できるのであれば問題ない（金森委員）。
- ・ 金具の裏板について
 - ・ 裏板は仕様を少し変える必要がある。特に牙は先が尖っているので長年の擦れによって傷むのを回避するために裏板を現状より少し大きくする。そのためにも現状の形状を把握したい（久保委員）。
- ・ 金具に関する今後のスケジュール確認

協議により以下のとおり決定（必要に応じて適宜調整する）

① 金具製作に関する初回打合せ	7/25 8/9	@刺繡工房
② 金具の成分分析調査		R5 に実施済
③ 成分分析調査結果に基づく詳細仕様の決定		
④ 金具サンプルと原寸図面の監修	8月ごろ	@金具工房
※サンプル：地金はできるが着色までは難しい		
⑤ 本製作の監修1（進捗確認）	11/5	@刺繡工房
※13:30開始（幕の監修と同時に進行）		
⑥ （必要な場合）本製作の監修2（進捗確認）	—	@金具工房
⑦ 完了検査（刺繡に付けられた状態を確認）	2月ごろ	@刺繡工房
⑧ 納品・完了検査	3月	@どんでん館

- ・幕本体に関する修理方針等の詳細説明（藤井委員）
 - ・本幕は、緻密で技術の高い技法で製作されており、染料も天然のものを用いていることなどから慶応3年よりも古い製作のではないかという印象を受ける。目の周囲に使われている洋紅や黄色の染料を見ると、時代的には近代にかかる時期かもしれないが、いずれにしても非常に良い作品であることは間違いない。直近の修理の際に、これ以上の修理は不可能と判断されている。できるかぎりの復元新調を実現したいと考えている。
- ・幕本体に関する製作技法等の説明（株龍村美術織物）
 - ・図柄は、現幕に破損がないため、現状で見えている形状を再現する。輪郭は、鱗一枚一枚までシャープに再現する。
 - ・配色は復元色で、化学染料を用いる。糸の底で当初の色を調査した結果に基づき、糸のサンプルを用意した。本金糸は1号色の8掛を中心として、麒麟などは同じ1号色でも掛数の違う撚金を用いて表現に差を出す。瑞雲は白、薄い縹色（はなだいろ）、藍、深い藍などで段ぼかしをする。緑の瑞雲は、糸の底に青系の色が残っていたことなども踏まえて復元の提案をする。麒麟は青味がかった緑が金糸の傍に使われている。配色は、今のところ本金を含め19色程度で再現できると考えている。
 - ・刺繡技法は、現幕の技法を再現すると、地場は金糸の駒詰め、麒麟は絹糸による唐撚りと金糸の駒詰め、瑞雲は絹糸による唐撚りの駒縫いとなる。唐撚りは、細い糸と太い糸を撚り合わせて糸に凹凸を出す。現物の表現を再現できるように調整する。
 - ・製作は上3cm、下2cm、左右5cmずつ余裕をもたせて刺繡し、車山の寸法を調査してから最終の寸法を決める。今月から刺繡の試作に入るので、本日試作箇所を決めたい。
→右の写真の箇所に決定
 - ・新調幕は現幕よりも立体的な感じになるか（金森委員）。
 - ・若干メリハリがつき、多少のボリューム感が出る。立体的な感じになるが、大きく変わることはない（株龍村美術織物）。
 - ・糸の色や状態によってもメリハリがつく（藤井委員）。
 - ・工期がタイトなので、試作と並行して本品の製作にも一部着手したい（株龍村美術織物）。
- ・図案と原寸下絵の確認
 - ・図案は現物と若干色味が違うがだいたいのイメージを確認することができる。糸が新しくなるため、艶が出てコントラストが強くなる。試作によってさらに明確なイメージをもっていただけるはずである（株龍村美術織物）。
 - ・原寸下絵では、同じ図柄の刺繡でも金糸の種類が複数あれば表現が異なってくることや、糸が縫われていく線などを確認することができる。向かい合う麒麟は阿吽の像になっている（株龍村美術織物）。
 - ・この水引幕の麒麟と瑞雲の図はかなり込み合っている。糸の種類も多い（藤井委員）。
 - ・4面のうちの最初の1面の製作がうまく進めば、残りの3面も安心して進められるので、今年度の製作は重要と認識している（株龍村美術織物）。



- ・ 幕本体に関する今後のスケジュール確認
協議により以下のとおり決定（必要に応じて適宜調整する）
 - ① 試作確認（+車山実測） 8/25 @どんでん館
※14:00 開始（雨天の場合、試作確認後の実測は延期）
※実測は車山本体のみ；現幕を掛けた状態での寸法差等の確認は別の機会に実施予定
 - ② 本製作の監修 1 未定 @刺繡工房
※藤井委員・龍村美術織物で実施
 - ③ 本製作の監修 2（進捗確認） 11/5 @刺繡工房
※13:30 開始（金具の監修と同時に行う）
 - ④ 本製作の監修 3（進捗確認） 未定 @刺繡工房
※藤井委員・龍村美術織物で実施
 - ⑤ 完了検査 2月ごろ @刺繡工房
 - ⑥ 納品・完了検査 3月 @どんでん館

5. 総括

- ・ 犬山祭伝承保存委員会で決定された基本方針に沿って細かい仕様まで検討ができ、非常に充実した修理委員会であった。町内の皆さんに要所要所で確認をしていただきながら、作業を進めていただきたい。また、仕様の変更などを検討する際には、文化庁にご相談をいただきたい（文化庁）。

（報告者：興石・市野）

中本町修理委員会（監修会）記録

日程： 令和6年8月9日（金）13:30～15:00

会場： 株内田刺繡工房

出席者： 委員（監修者）

鬼頭秀明氏

修理請負業者（株龍村美術織物）

谷口仁志氏、清水紀郎氏、小林諒子氏

修理請負業者（有松田）

松田聖氏、松田浩佑氏

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

市野恵子

1. 刺繡内金具の製作について

・ 金具と足の構造の確認

・ 現幕の金具の取り付け方法を確認するために株龍村美術織物で過去の修理記録写真を確認したところ、裏打ち的なものがあり目視での確認は不可能なことが判った。幕裏から触手で確認するしかない。

・ 触手にて確認できたこと：

目（黒目・白目）

◆ 割足がある。

◆ 座金は小さめである（黒目と白目の中间の大きさ）。

◆ 黒目にだけ割足が付いていて白目の裏で留めている。白目の裏には黒目より少し大きい座金がある。

◆ 白目は金糸のモールの縁取りによっても刺繡への固定が補強されている可能性がある。

牙

◆ それぞれの牙に2箇所ずつ割足がある。

◆ 座金がない。

◆ 牙に穴はなく糸で留めてはいない。



- 復元新調仕様についての検討：
 - 目（黒目・白目）
 - ◆ 座金を現状どおりのサイズで製作するか若干大きめにするか検討が必要（但し、白目の範囲内のサイズであることに変わりはない）。
 - 牙
 - ◆ しっかりと固定するため、また割足が刺繡の裏面を傷めないために座金を付けたほうがいい。
 - 金具の盛り上がり（高さ）を型取りゲージで測定した結果
 - 黒目の一番高いところ：H4.5mm
 - 白目の一番高いところ：H3.5mm
 - 牙の一番高いところ：H6.0mm
- はんだに錫を混ぜて型を取り、より忠実に復元する方法も検討する。



- 試作
 - 水引幕（右面）の向かって右側の麒麟の目と牙のサンプルを製作し、11月5日の監修会までに一度確認をする。
 - 着色後の金具保護の仕上げ方法
 - 6月6日の犬山祭伝承保存委員会で久保先生から「インクララックの塗布ではなく、ベンゾトリアーゾールをエタノールで希釈して塗布する仕様に修正」との発言があったため、修正仕様で実施する。

2. 金具に関する今後のスケジュール確認

① 金具製作に関する初回打合せ	8/9	@刺繡工房
② 金具の成分分析調査		
③ 成分分析調査結果に基づく詳細仕様の決定	R5 に実施済	
④ 金具サンプルと原寸図面の監修	未定	@未定
⑤ 本製作の監修1（進捗確認）	11/5	@刺繡工房
※13:30 開始（幕の監修と同時に行う）		
⑥ （必要な場合）本製作の監修2（進捗確認）	—	@金具工房
⑦ 完了検査（刺繡に付けられた状態を確認）	2月ごろ	@刺繡工房
⑧ 納品・完了検査	3月	@どんでん館

中本町修理委員会（監修会）記録

日程： 令和6年8月25日（日）14:00～17:00

会場： 中本町まちづくり拠点施設

出席者： 委員（監修者）

　　藤井健三氏

　　委員（中本町）

　　栗谷和男氏（会長兼会計）、高木文彦氏（副会長）、金森治樹氏、伊藤博康氏、

　　吉野雅司氏、近藤俊也氏、落合明水氏

　　修理請負業者（株龍村美術織物）

　　谷口仁志氏、清水紀郎氏、小林諒子氏

　　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

　　市野恵子

1. 刺繡試作の確認

- ・ 製作当初の糸の色を確認したうえで試作を行った。全体的に金糸が多いため現幕と比べると金の印象が強くなる。総刺繡の豪華な幕が復元されることになる（株龍村美術織物）。
 - ・ 個々の糸は現時点では未確定の状態であるが、今後、決定した詳細を仕様書に明確に記載すること（藤井委員）。
 - ・ 現幕どおり糸はほぼ唐撫りである。皮被せは無い（株龍村美術織物）。
 - ・ 金糸はすべて1号色。丸金または撫金のいずれか、且つ8掛または10掛のいずれかで復元する（株龍村美術織物）。
 - ・ 現幕の金糸には複数の種類があり、銅の含有率が高いものが含まれている。現在は金糸にそのような種類がないため、綴じ糸の色味で金刺繡に色の差をつける（株龍村美術織物）。
 - ・ 金の渦の流れは、より流れに沿った綴じ方をすること（藤井委員）。
 - ・ 白の絹糸は当初の色と推定される純白で試作している。藍色の糸のそばでは純白が美しく見え、金糸のそばでは現幕のような生成りの白が映える（株龍村美術織物）。
 - ・ 金糸の綴じ糸は、試作よりも赤を少し抑え、綴じ目の長さを若干短くして、ピッチを揃えること（藤井委員）。
 - ・ 雲の畝の糸は撫りを少し緩くすること（藤井委員）。
 - ・ 背景の金は綴じ糸のピッチを少し細かくすること（藤井委員）。
 - ・ 緑の雲のふちの糸の色味は、現幕では黄色味の強いからし色だが、当初の色は黄緑色に近い色と推定される（株龍村美術織物）。
- 本製作は試作よりも若干黄色に寄せた色味で行う（協議結果）。



2. 刺繡内金具に関する報告

- ・ 金具の構造を触手にて確認した結果、麒麟の黒目の裏に付いている割足が白目を貫通して黒目より少し大きいサイズの座金の裏で目全体を留めていることが判った。また牙は2箇所ずつ付いている割足で留められており、座金はなく、糸などで留めてはいないことも判った（徳龍村美術織物）。
- ・ 11月5日の監修会で、試作（着色なしの状態）によって形状と取り付け方を確認する。色は別に用意する銅板を着色したもので確認する（徳龍村美術織物）。

3. 今後のスケジュール確認

9/20	藤井委員による修正版の刺繡試作の確認	@内田刺繡	
9/20 以降	中本町による修正版の刺繡試作の確認	@中本町	
10/31 又は 11/1	藤井委員による本製作の進捗確認 ※金具試作と原寸図面の確認も実施	@内田刺繡	
11/5	刺繡製作の進捗確認と金具の試作確認	@内田刺繡	※全関係者
11月～2月	藤井委員による本製作の進捗確認	@内田刺繡	※必要な場合
2月ごろ	藤井委員による完了検査	@内田刺繡	
3月ごろ	納品・鬼頭委員による完了検査	@どんでん館	

令和 6 年 10 月 18 日

中本町修理委員会
監修委員 藤井 健三

中本町の水引幕復元新調に伴う監修報告（10 月 17 日実施）

1. 監修日時 令和 6 年 10 月 17 日（木）13:00～
2. 監修場所 内田刺繡工房（京都市内）
3. 立会者 ㈱龍村美術織物 谷口仁志、清水紀郎
4. 監修内容 下記のとおり

記

幕は、時間的な都合もあり、すでに刺繡台に下絵を載せて、部分的な紙縫りと肉入れ、麒麟の頭部と身体、瑞雲の一部の刺繡作業が進められていました。

麒麟の頭部はよくできていたように思います。耳などごく一部分に繊細さの表現の訂正と、今後の技法について検討をしました。

前回見た試作部分で問題となった瑞雲の萌黄色については、新しい色目からさらに検討を加えた微妙な色調を調整し、金糸も昔と現在で表情が違つて現れるので、現幕より少し細い金糸と甘撚りの太目の諸撚り色を用いた唐撚り糸で表現するなど改良を加え、さらに金糸を綴じる糸も、駒遣い糸の場所と諸撚り糸の個所で、綴じ糸の色調を少し変えて、強弱のあるも調和の採れた表現の配慮に留意してきたつもりです。

麒麟および瑞雲の唐撚り糸を用いた縫い目の表情についてはかなり美しく縫えていると思います。

前回の試作で懸案となっていた瑞雲の萌黄色の色調と、金糸の麒麟の渦毛部所の少し雜に見える綴じ糸表現については、以上のような改良を加えた方法で行うこととし、既に繡い進めている実際の幕面上で行ってみることとしました。そのほうがわかり易いのでそれで判断をして戴くことになりましたが、仮にお気に召さなくとも刺繡を解いて仕直すのは可能です。

内田刺繡に他件で 10 月 24 日に参りますので、まだその時は少ししか進んでいないでしょうが、一応途中検証をしておきます。

以上、ご報告いたします。昔のように材料の種類がなく、また質も種々に問題があつて、職人さん達は四苦八苦して行っています。

最善の努力を努めますので、そのあたりの材料や材質の製作仕様の調整についてはご理解をお願いしなければならないことがあるかもしれません、なにとぞよろしくお願ひいたします。

以上

中本町修理委員会（監修会）記録

日程： 令和6年11月5日（火）13:30～15:30

会場： 株内田刺繡工房

出席者： 委員（監修者）

　　藤井健三氏、鬼頭秀明氏

委員（中本町）

　　栗谷和男氏（会長兼会計）、吉野雅司氏、近藤俊也氏、落合明水氏、他5名

修理請負業者（株龍村美術織物）

　　谷口仁志氏、清水紀郎氏、小林諒子氏

修理請負業者（株内田刺繡工房）

　　内田暁氏

修理請負業者（有松田）

　　松田聖氏

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

　　加藤憲夫、市野恵子

1. 刺繡の進捗確認（8月25日の修正指示に基づく修正版部分試作の確認を含む）

- 新調幕の製作は、刺繡台に下絵を載せ、左側の麒麟の頭部と身体の一部、瑞雲の一部、金地の一部の刺繡作業が進められているところである。すべて直繡である。
- 緑色段量しの瑞雲の一番明るい黄緑色の色味は、前回の試作よりも明るい色味になっており、段量しの色調も良くなっている。
- 麒麟のたてがみの撫り金糸は8掛から10掛に変更し、8掛の丸金糸との差がよりくっきりと出るようになった。
- 撫り金糸の綴じ糸は赤味を抑えるために赤色から橙色に変更した。丸金糸の綴じ糸は黄色から薄黄色に変更した。全体のバランスも取れている。
- 現幕の金糸には複数の種類があり、銅の含有率が高いものが含まれている。現在は金糸にそのような種類がないため調達できる材料による復元作業となる。現在の金糸はやや固いが経年変化はしないものである。
- 麒麟の鱗には紙縫りを入れている。身体の一部には肉入れのためのワタを配置している。
- 順次決定した詳細については実施仕様書に記載してほしい。
- 総括：順調に進んでいる。1年目、2年目、3年目ともすべて同じ仕上がりになるように1年目で最高の出来のものを完成させる必要がある。そのことに留意して今後の作業を進めること。



2. 金具の進捗確認

- 8月の監修会で金具の構造を触手にて確認した結果、麒麟の黒目の裏に付いている割足が白目を貫通して黒目より少し大きいサイズの座金の裏で目全体を留めていることが判った。また牙は2箇所ずつ付いている割足で留められており、座金はなく、糸などで留めてはいないことも判った。
- 形状については現幕(前面等)の金具を元に作成した試作(黒目、白目、牙)で確認、着色は白目のみリング状のパーツによって確認した。黒目の着色と牙の最終的な色味は次回以降の監修会にて確認予定。
- 現幕からの直接の型取りは文化財を傷める可能性があるため行わなかった。目視等によってたたき型を製作した後、銅／ニッケル洋白を型にかぶせて、たたきとなめしを繰り返して成型したものである。
- ニッケル洋白はニッケルよりもかなり固い素材である。たたいてなめして最後は銀色になる。
- 現幕の牙には座金がないが、牙の先端が長年の擦れによって幕を傷めるのを防ぐために牙より少し大きめの座金を作ることにする。
- 金具の表面保護のためにインクララックは使わない。ベンゾトリアゾールをエタノールで希釈して直接塗布する。
- 総括：形、色ともに問題なく、良い仕上がりになることが期待できる。装着方法についても最終の確認ができたので、計画に沿って進めてほしい。



3. 今後のスケジュール確認

- | | | | |
|---|----------------|--------|-----------|
| ・ 11月～2月 | 藤井委員による刺繡の進捗確認 | @内田刺繡 | ※必要に応じて実施 |
| ・ 1月中旬 | 藤井委員による刺繡の進捗確認 | @場所未定 | |
| (同日) | 鬼頭委員による金具の進捗確認 | @場所未定 | |
| ・ 1月30日の犬山祭伝承保存委員会後の中本町修理委員会は作業途中の刺繡台を運ぶことができないため開催しない。 | | | |
| ・ 3月16日前 | 納品、完了検査 | @どんでん館 | |

※この日に現幕4面一式を株龍村美術織物から中本町へ返却、4月の犬山祭後に再度中本町から株龍村美術織物へ預ける。

中本町修理委員会（監修会）記録

日程： 令和7年1月17日（金）13:30～14:45

会場： 犬山市役所 201会議室

出席者： 委員（監修者）

鬼頭秀明氏

委員（中本町）

栗谷和男氏（会長兼会計）

修理請負業者（株）龍村美術織物

清水紀郎氏、小林諒子氏

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

市野恵子

1. 金具の進捗確認

- ・ 水引幕右面の金具（麒麟2体の黒目、白目、牙）の製作状況を確認し、良ければ残り3面の金具の製作を進める。
- ・ 黒目、白目、白目の裏の座金、牙、牙の裏の座金は仕様書どおりに製作されている。現時点ではまだベンゾトリアゾールは塗布されていない。また前回までの監修会で確認した留め方になるよう割足が製作されている。
- ・ 白目の穴（黒目が被さる穴）が若干大きい。黒目のサイズに近すぎるのでわずかに小さくする。白目の裏には綿を入れて安定させる。
- ・ ニッケル洋白の銀色（たたいてなめした後の最終的な色や光り方）を確認した。牙の堅さが際立つような銀色であり、現幕の印象とはかなり異なるものになる。
- ・ 総括：形、色ともに問題ない。他の3面の金具も同様に製作を進めてよい。



2. 1月16日の藤井委員による刺繡の進捗確認結果（概要）；情報共有

- ・ 刺繡は1月16日時点で全工程の6割強まで進んでいる。1月末までに麒麟2体を完成予定。2月に背景と中央部の残りを完了させる見込みである。
- ・ 藤井委員は「背景、雲、麒麟の凹凸、たてがみの表現はすべてきれいに上がっている。あとは刺繡

上がりまでの限られた時間の中で完成させることのみ。」と評価している。

- ・ 麒麟の眉毛の技法を改良する(試作がやや整然としすぎているため、もう少しモジャモジャにする)ことになった。
- ・ 新調幕は、金糸、絹糸、金具すべての色味が鮮やかになり、幕全体が明るい印象になる見込み。
- ・ 総括：順調に進んでいる。2月27日の刺繡上がり検収まで確実に進めること。

3. 今後のスケジュール確認

- ・ 2月27日 刺繡上がり検収 @内田刺繡
- ・ 3月16日前 納品、完了検査 @どんでん館

※この日に現幕4面一式を駒龍村美術織物から中本町へ返却、4月の犬山祭後に再度中本町から駒龍村美術織物へ預ける。

寺内町車山「老松」



寺内町老松保存修理事業 修理概要

(1) 補助事業に係る文化財の概要

イ. 名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 (寺内町)	犬山市内 (寺内町)	H18.3.15.	寺内町老松車 (車輪の復元新調)

ロ. 過去における事業の内容とその実施年度 (自費事業を含む)

文化 12 年 (1815)	赤幕新調
文政 13 年 (1830)	上山改修工事 (三層の車山となる)
弘化 04 年 (1847)	からくり人形製作
元治 01 年 (1864)	水引幕新調
大正 05 年 (1916)	中幕新調
昭和 11 年 (1936)	赤幕新調
昭和 47 年 (1975)	からくり人形修理 <県費補助事業>
昭和 57 年 (1982)	車山漆箔修理工事等 <県費補助事業>
昭和 58 年 (1983)	中幕新調
平成 05 年 (1993)	夜山用中幕新調
平成 09 年 (1997)	からくり人形修理 <県費補助事業>
平成 13 年 (2001)	芯棒・六本柱復元新調 <県費補助事業>
平成 17 年 (2005)	梶棒復元新調 <県費補助事業>
平成 22 年 (2010)	芯棒・大引・中大引復元新調 <国庫補助事業>
平成 22-23 年 (2010-11)	水引幕復元新調 <国庫補助事業>

ハ. 現在（修理前）の状況

寺内町の車山「老松」の車輪は製作年代が不詳であり、長年にわたる使用によって真円形であった車輪が楕円形に変容している。特に左前輪では長径と短径の差が大きく、それが他の車輪との不調和をもたらして、押しても止まってしまう場合があるなど運行に支障を来たしている。楕円形の車輪ががたがたと揺れ、輪の内側が芯棒に接触するため芯棒包み金物を留めるビスの頭が取れている。外周の状態も極めて悪く、傍方向へは材を打ち足すことが可能であるが木口方向には足せないため、全体として円を相当小さくする以外に真円形の車輪に戻すことが不可能である。見付面にも割れが多数見られる。消耗を伴う足廻り部材としては、すでに耐用の限界を超えている。車輪は安全な運行の要であり、早期の復元新調を必要としている。

(2) 補助事業の内容

イ. 概要

修理内容（予定）

- ・車輪一式の復元新調
- ・芯棒包み金物一式の修理調整

工期

令和8年4月～令和9年3月（予定）

ロ. 工事事務

- ・犬山祭伝承保存委員会で了承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（寺内町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成（予定）〕

寺内町代表者

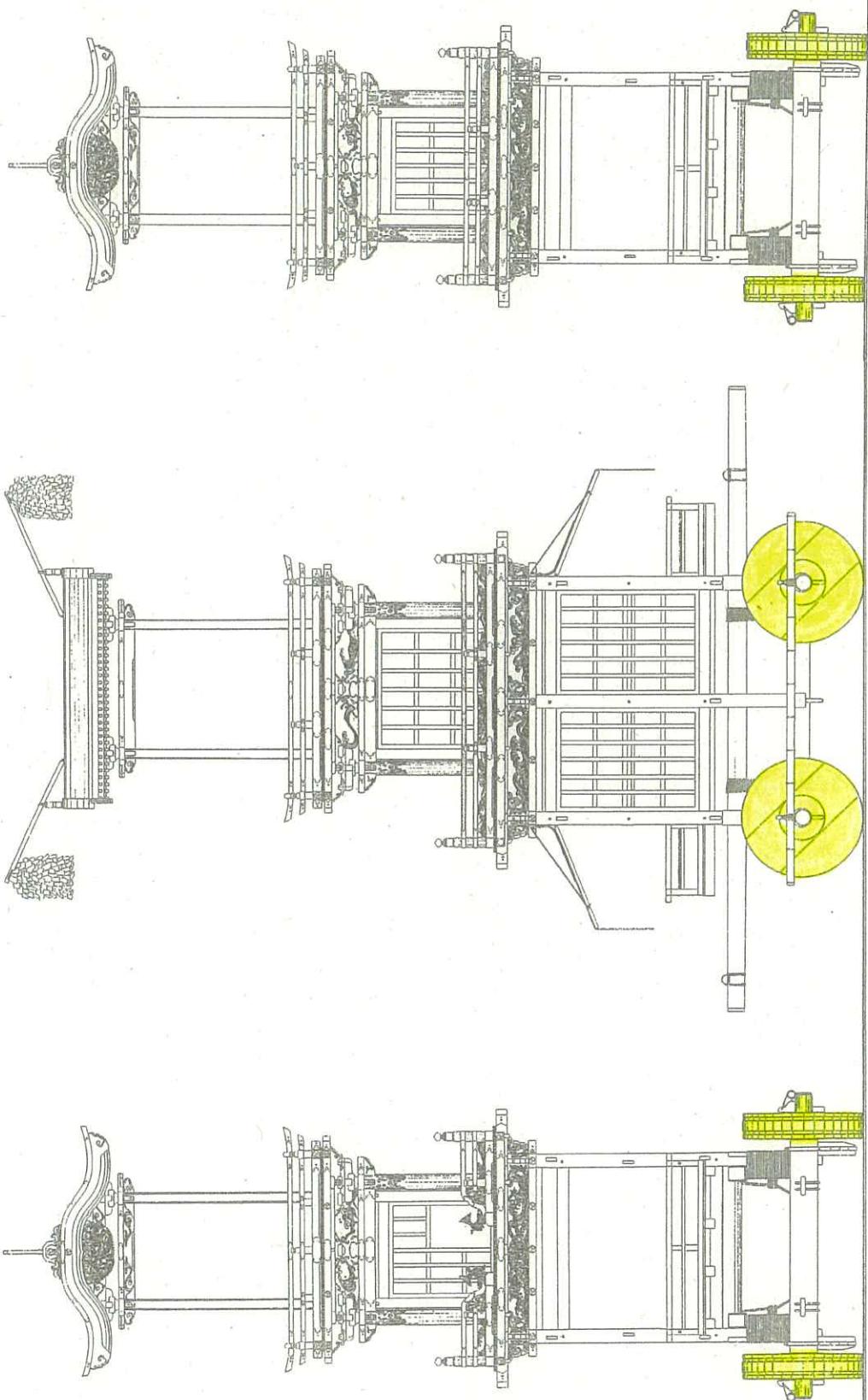
鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会）

岩田敏也氏（犬山祭伝承保存委員会）※監修者

- ・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。
- ・詳細な修理記録を作成する。

ハ. 工事仕様

別添仕様案参照



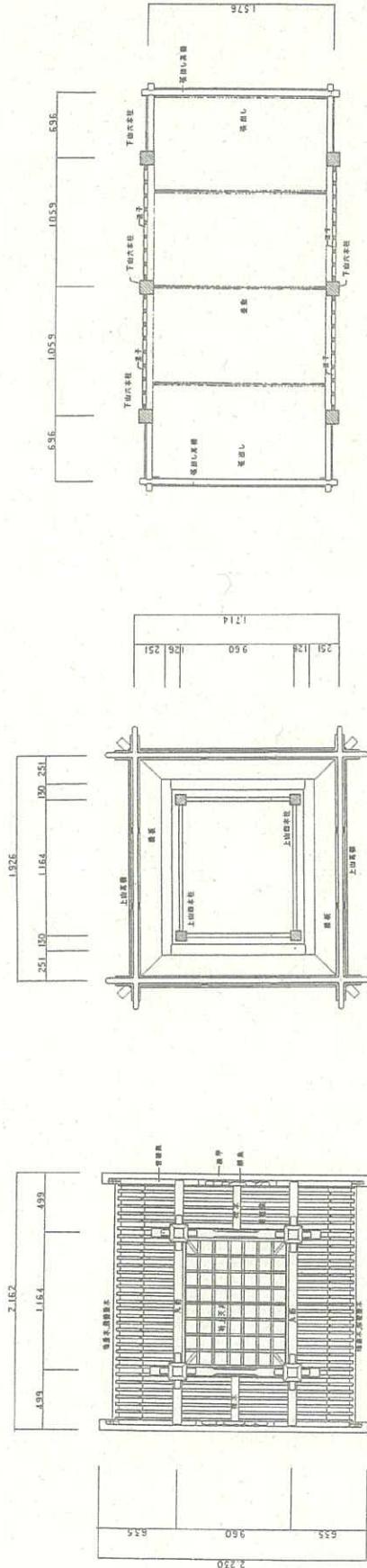
背面 立面図

右侧面 立面図

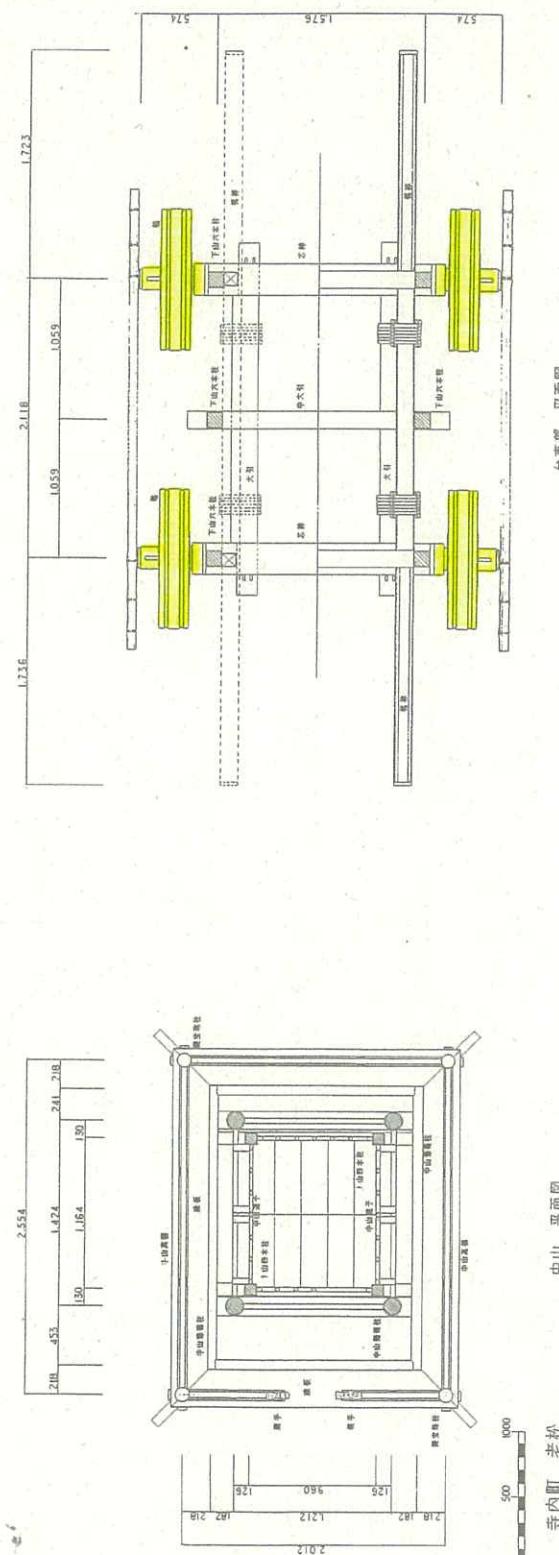
正面 立面図

寺内町 老松
0 50 100

(十一) 【寺内町】 3-3



上山 天井伏図
上山 平面図
下山 平面図
中山 平面図
台車部 平面図



寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計4輪）

車輪が橢円形になっている（特に左前輪で顕著）
長径と短径の差が最大 15mm 程あり、
運行に支障をきたしている（押しても
止まってしまうことがある）ほか、車
山が傾いている可能性がある



寺内町車山の車輪（計4輪）

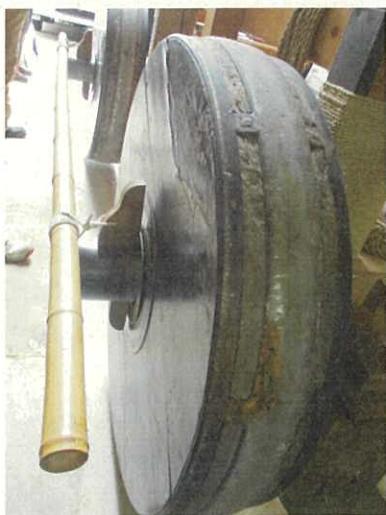
外周の状態が非常に悪い



寺内町車山の車輪（計4輪）

外周の状態が非常に悪い

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



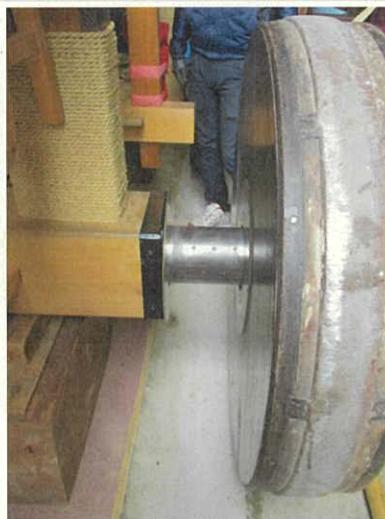
寺内町車山の車輪（計4輪）

芯棒包み金物

左：筒金具

右：木口包金具

筒金具と木口包金具が接合されていないため芯棒が元折れしたときに鉄部の応力が不安である



寺内町車山の車輪（計4輪）

車輪が橢円であるためガタンゴトンし輪の内側が芯棒に当たるため芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れ金物がずれて外れそうである



寺内町車山の車輪（計4輪）

芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れている

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計4輪）

見付面にも割れが目立つ



寺内町車山の車輪（計4輪）

見付面の接地付近部分の欠損が多い



寺内町車山の車輪（計4輪）

見付面の接地付近部分の欠損が多い

犬山祭 寺内町車山車輪復元新調工事仕様書（案）

1. 工事名称 寺内町車山車輪復元新調工事

2. 工事場所 寺内町車山蔵、請負業者作業場等

3. 工期 令和8年度（予定）

4. 工事概要

寺内町車山は昭和57年度に全解体修理、平成22年度に芯棒の新調がされている。この時の事業に車輪修理は含まれていなかったが、これ以降経年による車輪直径寸法の不揃いや鉄輪の緩みが進行し、また部材にも割れや欠損があり、曳行に支障をきたす状況となっている。このことから車輪の新調を実施する。

5. 破損状況等

①車輪

- ・車輪は直径3尺5寸～3尺4寸3分(1,060～1,039mm)、厚み0.73寸(221mm)の中央、両脇の板材の積層による板車、外周に鉄輪を3本巻き付けてある。
- ・車輪、鉄輪の各部材の寸法は次のとおりである。※表示寸法は木部分
進行方向向かって左前：(長径)3尺5寸 (短径)3尺4寸8分
左後：(長径)3尺4寸5分 (短径)3尺4寸3分
右前：(長径)3尺4寸7分 (短径)3尺4寸5分
右後：(長径)3尺4寸6分 (短径)3尺4寸5分
鉄輪(中央)：幅90mm、厚さ12mm
鉄輪(両側)：幅32mm、厚さ9mm
- ・車輪の破損状況は各所に割れ、欠損が目視にて確認できる。また側面の接地付近部分の欠損が多い。
- ・鉄輪は中央、両側を繋ぎ材にて溶接固定されているが接合不良箇所が目視で確認することができる。

②芯棒筒金具

- ・筒金具と木口包金具が接合されておらず芯棒が元折れしたときに鉄部の応力が不安である。
- ・筒金具と木部の隙間があり、それにより筒が左右に回転しようと動くため鼻栓を損傷する状況になっている。

6. 工事量

区分	摘要	員数	備考
①着手準備	記録用写真撮影・実測調査等	1式	
②搬出・解体調査			
・車輪、芯棒の搬出	車輪1輪、芯棒2本の搬出	1式	
・車輪の解体	車輪の解体	1輪	
・施工図作成	工法・技法調査後の作成	1式	
③車輪工事			
・木工事	取り替え木材 仕口、加工図作成 木材加工、組立	1式 1式 1式	
・金具工事	鉄輪（中央）（両側）曲げ加工 面取り加工 焼き嵌め 座板製作	4輪 4輪 4輪 4組	1輪につき3本 〃 〃 両面1組
・塗装工事	拭き漆塗り	4輪	
④芯棒筒金具			
・金具取り外し	筒金具、木口包金具	4本	
・金具固定	溶接にて固定	4本	
・取付け	隙間埋め、取付け調整	1式	
⑤搬入・取付け	車山蔵に車輪・芯棒の納入	1式	
⑥完了届	各工程及び完了写真を添付	1式	
⑦完了検査	請負人、寺内町修理委員会の立会	1式	

7. 仕様書

1) 一般共通事項

① 総則

この仕様書は概要を示すもので、記載のない事項は寺内町修理委員会の指示に従い施工する。

② 監修者

監修者は、非常勤で当該工事を監修する。このため工事請負者は、事前に仕様書及び工程などの打ち合わせをおこなう。

③ 施工基準

当該工事は、設計図書（仕様書、図面など）により、契約書を遵守し施工する。疑義が生じた場合は、直ちに報告し、監修者の指示により施工する。

④ 技術管理

主任技術者は、車山・曳山等修理工事の経験が豊富で、社寺建築の修理経験者または同等以上の技能を有するものとする。

⑤材料検収

納入材料は監修者の検査を受けて合格した材料のみを使用する。

⑥検査

施工途中の検査は、監修者の監修時に隨時おこなう。また工事完了検査は、事前に必要な図書及び写真などを整え、寺内町修理委員会に提出のうえ、監修者の検査を受ける。

⑦記録写真

記録写真は、正確に日付調整したデジタルカメラを使用し、納入材料、工事施工中に隨時撮影し、工事完了届に添付して寺内町修理委員会へ提出する。

⑧保険など

請負人は労働保険、その他法律で定められた事項の全ての手続きをおこない、適正な処置を講じる。

⑨資料などの発見及び保存

部材に墨書きなどを発見した場合は、速やかに監修者に報告する。

⑩その他

工事請負者は、車山及び車山蔵などを損傷しないように注意を払って施工する。万一損傷した場合は、速やかに工事請負者の負担で復旧する。また危険防止ならびに防火対策については、常に配慮し、適切な処置を講じる。

2) 工事仕様

①搬出・解体調査

イ) 概要

車山蔵からの搬出・施工業者作業所にて解体調査をおこなう。

ロ) 搬出

調査対象の車輪1輪と、芯棒2本の搬出をおこなう。

ハ) 解体

実測調査、写真撮影完了後、順序よく丁寧に取り外す。

車輪は鉄輪を切断し、中央・両側板の各部材に符号等にて位置記録をして、取り外し見え隠れ部分の工法、技法調査をおこない、新材加工の資料とする。

二) 養生

取り外した部材は、破損、汚損が生じないように部材ごとに養生し、保管する。

②車輪工事

イ) 概要

車輪4輪の新調をおこなう。

ロ) 材料

新調材は国産材で、歪みや腐れ等の欠点のない良質材とする。伐採後数年間の乾燥期間を経た含水率20%以下の乾燥材とする。

車輪材 ケヤキ、芯去材、無節、赤身

ハ) 工法

新調する車輪は、原則として旧形、旧工法を踏襲する。

車輪は現状の車輪の解体調査に基づき、製作図を作成する。製作図完成後、寺内町修理委員会の検査を受け、合格したものに基づいて木取りをおこなう。現状の車輪に倣って製作加工し、従来どおり順次組み立てる。

二) 鉄輪

中央 SS400 巾 90mm 厚さ 12mm 面取り 4 本 焼き嵌め

両側 SS400 巾 38mm 高さ 41mm 厚さ 9mm L型 面取り 12 本 焼き嵌め

ホ) 座板

座板（両面 1 組） SS400 直径 380mm 厚さ 6mm 皿ボルト固定

ヘ) 塗装

塗装は拭き漆塗りを 3 回おこなう。

③芯棒筒金具

イ) 概要

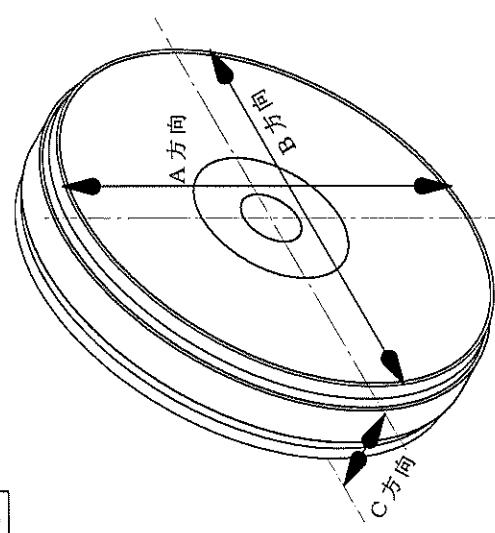
筒金具の修理、調整をおこなう。

ロ) 工法

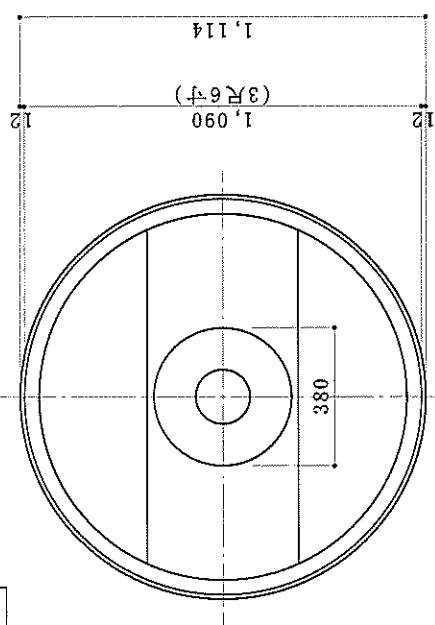
芯棒から筒金具、木口包金具を取り外して溶接固定をおこない、筒金具と木部の隙間を充填・埋木をしたのち取付けをおこなう。

車輪

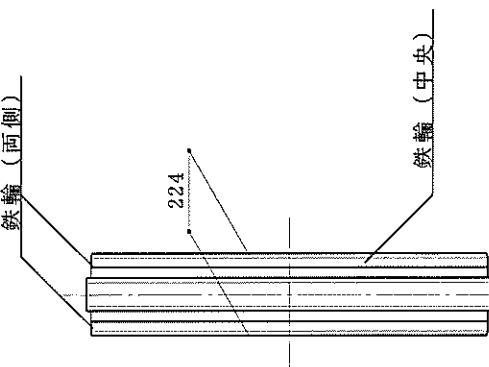
現況



鉄輪(両側)



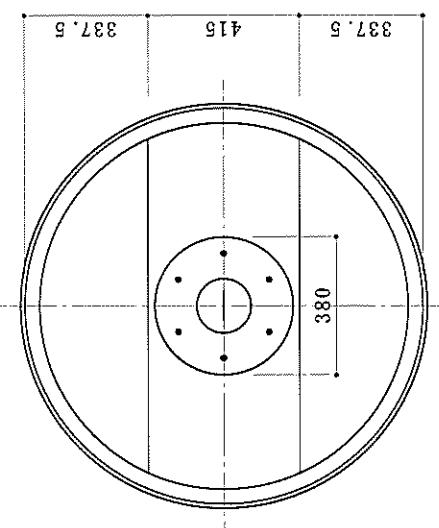
表



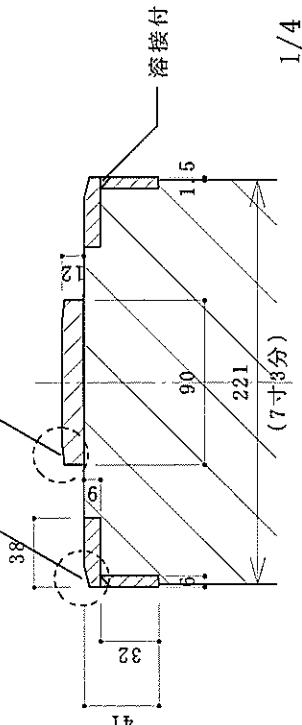
側面

場所	A方向	B方向	C方向
左前	3尺5寸	3尺4寸8分	7寸3分
右前	3尺4寸7分	3尺4寸5分	7寸3分
左後	3尺4寸5分	3尺4寸3分	7寸3分
右後	3尺4寸6分	3尺4寸5分	7寸3分

現況調査寸法



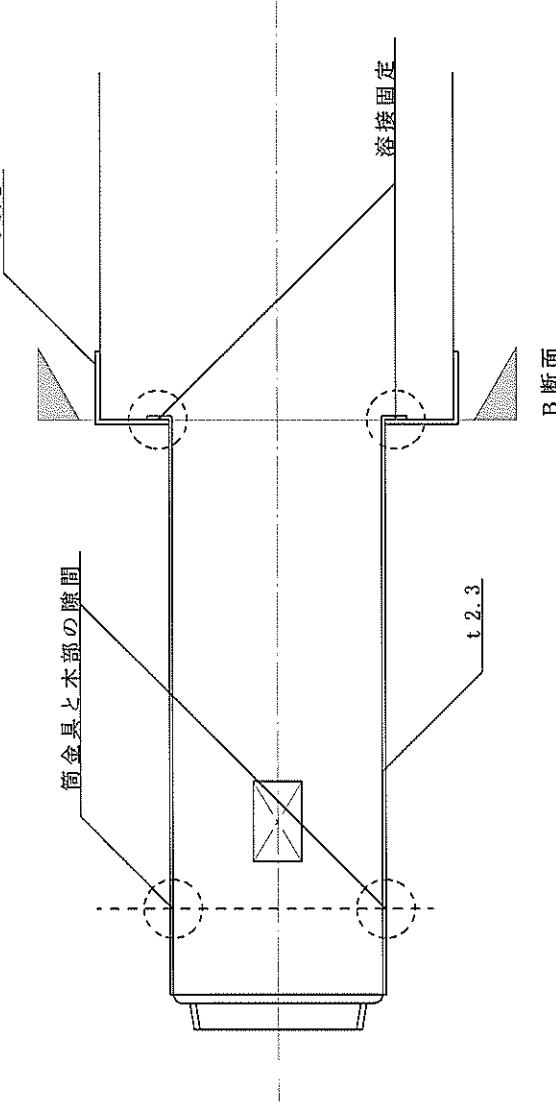
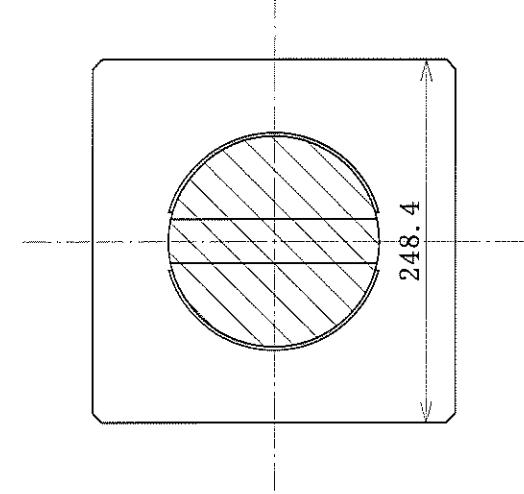
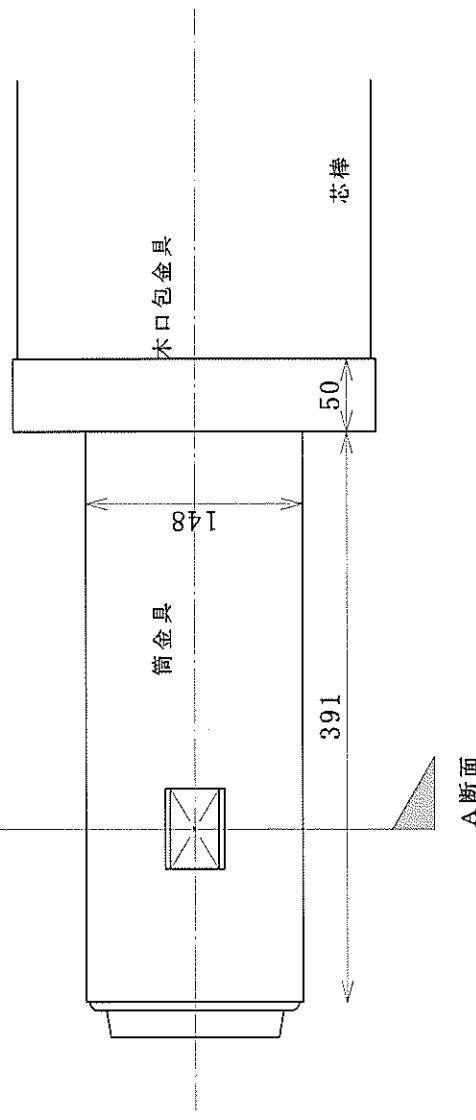
裏



面取り ※調査、施工図作成後に協議

図面名	犬山祭寺内町車輪新調詳細図
縮尺	1/20

筒金具



図面名	縮尺
犬山祭 寺内町芯棒筒金具詳細図	1/15

犬山祭伝承保存委員会 寺内町車山車輪等現場確認 記録

日程： 令和 6 年 8 月 20 日（火） 11:00～12:00

会場： 寺内町車山藏

出席者： 委員

　　岩田敏也氏

　　寺内町

　　三輪征宏氏

　　協力業者（㈲八野大工）

　　八野泰明氏

　　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

　　市野恵子

1. 車輪の復元新調について

- ・ 復元新調仕様全般
 - ・ 車輪は消耗品であり、道路も昔に比べて硬くなっているので、何十年かごとに取り替える必要がある（岩田委員）。
 - ・ 仕様は現行案で問題ない（岩田委員）。
- ・ 車輪の復元寸法（直径・厚み）
 - ・ 長年の使用と修理によって削られ、小さくなっているので当初の寸法に復するために現状より大きい寸法で復元新調する（岩田委員）。
 - ・ 契約後に現車輪（1輪）の解体調査をする。その時に元々の車輪の寸法を推定できるので、その時点で詳細な復元寸法を検討するのがいい（八野氏）。
- ・ 車輪の構造（接ぎ方）と新調後の部材の収縮
 - ・ 平成 20 年度に車輪を復元新調した枝町は、平成 25 年度に耐久性をより長く確保するために鉄輪の締め直しを行っている。これは復元新調を計画した段階から想定されていた（事務局）。
 - ・ なるべく締め直しの必要がないように部材を用意したいと考えているが、可能性として三枚接ぎの部材の 1 枚につき 1~2mm 寸法が変わる（= 収縮する）ことがある。10 年後あたりの締め直しを想定する必要はある（八野氏）。
 - ・ 三枚接ぎが本当にベストなのか。一枚の輪はどうか（三輪氏）。
 - 三枚の方が収縮度合いが少なく、収縮した場合の調整もしやすい（八野氏）。
 - 犬山の車輪の大きさで一枚の輪にするだけの材は入手が難しく、できたとしてもかなり高価になる（岩田委員）。
 - ・ 材を他で調達して加工のみ依頼することは可能か（三輪氏）。
 - 可能である（八野氏）。
 - ・ 仕様書案では「新調材は国産材で歪みや腐れ等の欠点のない良質材とする。伐採後数年間の乾燥期間を経た含水率 20% 以下の乾燥材とする」とあるが、これは自然乾燥か（事務局）。
 - 自然乾燥である（八野氏）。

- ・ 鉄輪
 - ・ 運行時に中央の鉄輪で接地するように設計してもらっている。現況も概ねそうなっている（三輪氏）。
 - ・ 3本の鉄輪を相互に繋いでいる鉄帯も復元するのか（岩田委員）。
→鉄帯は鉄輪にズレが生じてきたために応急的な補強として町内で付けたものであり、新調時にしっかりと焼き嵌めしてもらえば不要なものである（三輪氏）。
 - ・ 寺内町の希望により両側2本の鉄輪は今回の新調時にL型にする計画である。見附面の保護のためであり、犬山の車輪の鉄輪は、締め直しの機会に両端の形状をL型にしてきており、施工後の経過も良好である（事務局）。

2. 芯棒筒金具について

- ・ 木口包金具との接合
 - ・ 芯棒が元折れしたときの鉄部の応力が不安であるため溶接固定をする。筒金具と木部の隙間を充填・埋木する（八野氏）。

3. その他

- ・ 真鍮製のペアリング（ワッシャー）のことを寺内町では「油よけ」と呼んでいる。車輪の表と裏に1枚ずつ設置している。グリスホールを加工してあり、グリスが芯棒に不要に広がるのを防ぐ効果がある（三輪氏）。
- ・ 復元新調後、旧車輪（令和6年現在使用中の車輪）は車山蔵内で保管すること（岩田委員）。